

「權隆文学」 既刊号内容

(国文学関係)

- 第一号(昭和二十四年十月二十日刊)
大鏡の本文に関する問題 宇佐美喜三八
万葉集と近代 安田 章生
- 第二号(昭和二十五年十月二十日刊)
藤原俊成 安田 章生
方丈記の自然感情について 小野千恵子
賀茂真淵と古今和歌集 宇佐美喜三八
- 第三号(昭和二十六年十月二十日刊)
風雅集の考察 久松 潜一
連歌と俳諧 小島 吉雄
藤原定家 安田 章生
岸田国土―戯曲論を中心として 徳田みち子
- 第四号(昭和二十七年十月二十日刊)
上代語彙論ノート
「しか」と「さ」の交錯 原田 芳起
赤紐考 寺阪美千代
式子内親王 安田 章生
由良物語について 宇佐美喜三八
近世小説史上の一事実 林 瑠璃子
田舎教師 林 瑠璃子
- 第五号(昭和二十八年十月二十日刊)
西行と定家 安田 章生
源氏物語に現われた嫉妬と謗念 徳田みち子
大菅中養父の歌論について 宇佐美喜三八
- 活用現象の解釈 原田 芳起
辞の機能との交渉 原田 芳起
第六号(昭和二十九年十月二十日刊)
かつ・かつがつかてに考 原田 芳起
続上代語彙論ノート 原田 芳起
こまか・こまやか 原田 芳起
紫式部日記源氏物語用語ノート 寺阪美千代
田安宗武の歌論について 寺阪美千代
儒教の音楽思想の影響の問題 宇佐美喜三八
- 第七号(昭和三十年十月二十日刊)
竹取物語の文体 寺阪美千代
源氏物語における史記の投影 仁田香鶴子
上代日本語動詞について 原田 芳起
通時論的な一二の問題 原田 芳起
第八号(昭和三十一年十月二十日刊)
共時態における意味の統一性 原田 芳起
おぼろげに考 久保 重
青表紙本の表現について 宇佐美喜三八
国歌八論について 宇佐美喜三八
- 第九号(昭和三十二年十月二十日刊)
歌源論に関する問題 安田 章生
短歌的芸術観 今鏡の文学論 安田 章生
「つくり物語のゆくへ」を中心に 則保 洋栄
- 語法と文体 原田 芳起
第十号(昭和三十三年十月二十日刊)
続々上代語彙論ノート 原田 芳起
―平安朝の数名詞とその表記 原田 芳起
万葉植物に関する一考察 畚野 弘子
日記に見られる紫式部の二つの思念 竹内美千代
- 第十一号(昭和三十四年十月二十日刊)
源氏物語における漢語彙の位相 原田 芳起
寂蓮・家隆 安田 章生
―新古今集の二歌人― 有岡 住子
立原道造論 有岡 住子
青表紙本に於ける 久保 重
句の断続の意味について 久保 重
第十二号(昭和三十五年十月二十日刊)
活用形式の分岐・交替と意味 原田 芳起
「隠る」の古活用など 竹内美千代
玉鬘小考 竹内美千代
真淵の漢学の教養に関して 宇佐美喜三八
- 第十三号(昭和三十六年十月二十日刊)
中世和歌 安田 章生
―その範囲と特色― 竹内美千代
清慎公集と義孝集について 大谷 光子
梶井基次郎 大谷 光子
第十四号(昭和三十七年十月二十日刊)
宇都保物語「内侍のかみ」小論 原田 芳起
―物語構想の中の時間― 安田 章生
定家の時代意識 安田 章生
安田章生著「日本の詩歌」読後 竹内美千代